



MediBic

株式会社メディビックグループ

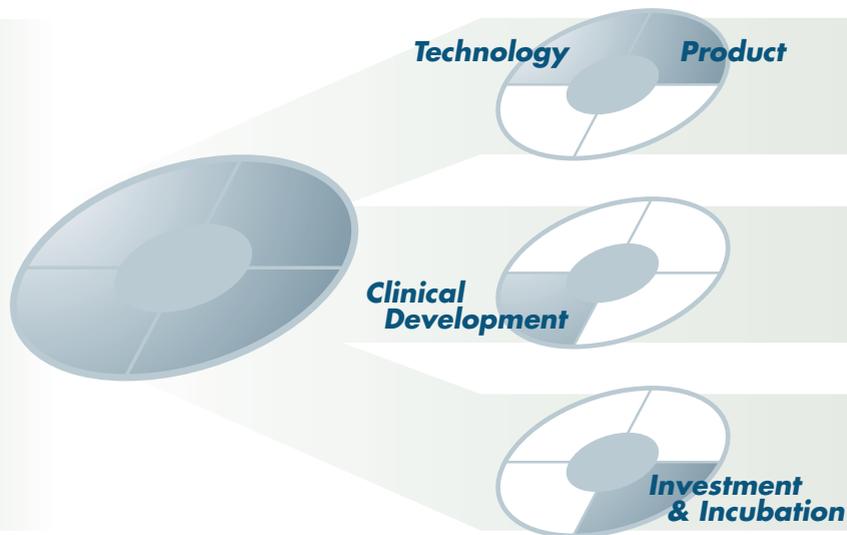
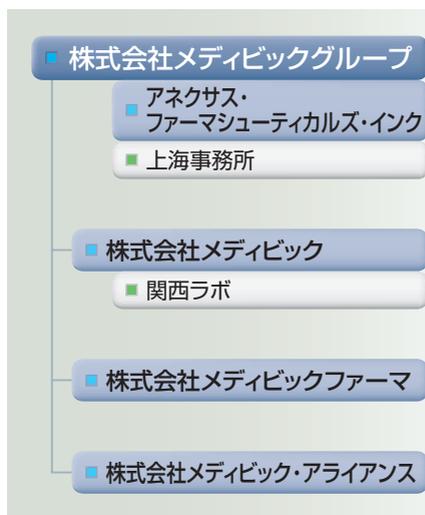
第7期 || 中間事業報告書
2006.1.1 ▶ 2006.6.30

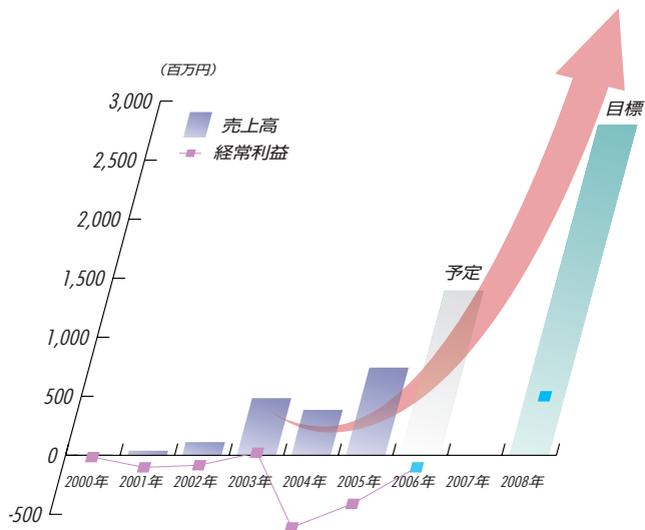
『革新』と『創造』 スピード経営の実践

ホールディングカンパニー制を導入し新組織体制へ

当社グループは事業持株会社である当社を中心とした分社経営体制を構築してまいりましたが、2006年1月に公表いたしました「中期経営計画」に基づき、同年7月3日をもって純粋持株会社体制に移行しました。株式会社メディビックは「株式会社メディビックグループ」へ社名変更し、持株会社としてグループ戦略を立案・遂行することで、グループ全体の経営効率化や経営資源の配分をより効果的に行えるようになりました。

今後は、個人に適した副作用の少ない医療の実現を目指し、医療・医薬品業界を中心に「革新」と「創造」を提供する企業として、より一層のスピード経営を目指してまいります。





2006年中間期 業績ハイライト

当中間期は連結売上高で前年同期比の2倍を達成。通期の業績達成に向けて着実に実績を積み上げています。

「バイオマーカー創薬支援事業」では、遺伝子発現解析ソフトArrayAssist[®]の国内独占販売権を獲得したほか、PGxトータルソリューションや脂質代謝解析など様々なサービスを開始しました。「創薬事業」では国内臨床試験の準備が進められ、「投資・投資育成事業」では前年同期比で売上高が3倍以上の成長を見せるなど、今年1月に発表した中期経営計画が順調に実行されつつあります。

バイオマーカー創薬支援事業

■ 株式会社メディック

■ 関西ラボ

- 2006・3 遺伝子発現解析ソフトArrayAssist[®]国内独占販売権獲得
- 2006・5 PGxトータルソリューションサービス開始
- 2006・6 脂質代謝解析サービス開始

P3~5 ▶

注) 株式会社メディックは、持株会社制への移行に伴い会社分割により新設された子会社で、未上場会社です。

創薬事業

■ 株式会社メディックファーマ

- 2004・12 米国・スレッシュホールド社と抗がん剤グルフォスファミドの共同開発開始
- グルフォスファミド国内臨床試験準備

P6 ▶

投資・投資育成事業

■ 株式会社メディック・アライアンス

- 投資先約20社へ増加(2006年9月現在、既に3社が上場済み)
- 韓国・中国への積極的な展開
- 投資事業組合の運営規模拡大

P7・8 ▶

バイオマーカー創薬支援事業の基盤強化へ

「個の医療」の実現に不可欠なソリューションサービス提供を開始

個の医療（個人の体質に適した医療）の実現を目指し、遺伝子情報処理技術開発から始まった当社のインフォマティクス事業は、2006年にコンサルティング事業と統合してファーマコゲノミクス※（PGx）を活用したバイオマーカー創薬支援事業として新たなスタートを切りました。

バイオマーカー創薬は、短期間で効率的に画期的医薬品の開発を可能とする手法として、飛躍的な技術革新が期待される分野です。

当社はこのバイオマーカー創薬支援事業に経営資源を集中して、これまでに培ってきたデータマイニング技術を中心に、技術とサービスの強化を推進しています。

当中間期（2006年1月～6月）は、バイオマーカー創薬の過程で実施される臨床試験の円滑な運営を支援する

PGxトータルソリューションサービスと、脂質に関連するバイオマーカー探索から疾患進行予測や新薬開発まで、幅広く応用できる脂質代謝解析サービスを開始いたしました。また、当社が2004年からインドのバイオインフォマティクス企業と共同で開発を進めてきた遺伝子発現解析ソフトの販売と、そのソフトを用いたデータ分析サービスを始めるなど、事業の積極展開を着々と進めています。

<※ファーマコゲノミクス>個人の遺伝子情報をもとに薬に対する有効性や副作用を予測することが可能なサイエンス（研究・概念・手法・戦略など全てを含む）

脂質代謝解析サービスを開始

世界中、特に先進国において増加の一途をたどる生活習慣病。その原因として、体内での脂質の代謝や機能の異常が深く関連することが明らかになっています。当社が2006年6月に開始した脂質代謝解析サービスは、病因の解明やバイオマーカー探索など、生活習慣病を対象とする医薬品の研究開発過程のみならず、生活習慣病に関する診断指標の策定やサプリメントの開発などにも役に立つ技術です。当社が開発した生活習慣病の予測システムと提携先の米国・リボミックス社の技術とを組み合わせることで、個人に適した生活習慣病治療と健康管理に貢献できるものと考えています。

世界に広がるメディビックの技術

～DNAチップ解析用ソフトの国内独占販売権を獲得

メディビックでは、2004年から事業提携を始めたストランド・ライフ・サイエンス社とともに、個人に適した副作用の少ない医薬品の開発に役立つ遺伝子を探索するためのソフトを開発していました。今年に入りその基盤技術を取り入れて改良されたソフトウェアArrayAssist[®]が、DNAチップの世界最大シェアを持つ米国・アフィメトリクス社のExonチップなど新しいタイプのチップに対応する解析用ソフトとして認定されました。メディビックでは、ArrayAssist[®]の国内独占販売権を獲得し、その販売とデータ分析サービスを行っています。

グローバルな薬の開発に必須なサービス

～PGxトータルソリューションの提供を始めました。

テーラーメイド医療を実現するために、PGxによって臨床試験の効率を高めることは、欧米の大手製薬企業が牽引する医薬品開発の大きな流れとなっています。グローバル開発を行う医薬品の場合、これら欧米のデータと日本のデータを比較あるいは統合して評価するために、日本においてもPGx試験の実施が避けて通れません。医薬品の体内での動態（吸収、分布、代謝、排泄）が人種間で異なる場合があるためです。このことを反映して、日本でも医薬品開発や臨床研究へのPGxの適用に対するニーズが高まりつつあります。

メディックでは、国内最大規模の検体バンキング施設を管理し、PGx試験を総合的に支援できる体制を築きあげ、5月よりサービスの提供を始めています。

検体バンキングサービス

- ヒトのDNA検体や血液検体などを保管できる公的機関を利用した国内初の検体保管施設
- 試験の信頼性を保証するための世界標準に準拠した施設及び運営管理体制
- 国内外複数の施設での検体の追跡を可能とする検体収集・輸送システムを確保



PGxトータルソリューションの流れ

開発戦略立案

- PGx動向情報の提供
- 開発・戦略立案
- PGx計画立案

臨床試験の計画・実施準備

- 当局関連情報の提供
- ガイドライン翻訳
- SOP作成
- Feasibility assessment
- プロトコルの作成
- 同意説明文書の作成
- 解析計画書の作成
- パートナーの紹介・手配

臨床試験の実施

- CRO・SMOマネジメント
- ロジスティック
- トラッキング
- ステータス管理
- バンキング
- 検体の匿名化
- 検体管理システム
- データベース化

データ解析

- GLP準拠 遺伝子抽出
- GLP準拠 タイピング
- FDA認可AmpliChip[®]解析
- 統計解析
- 探索的データ解析

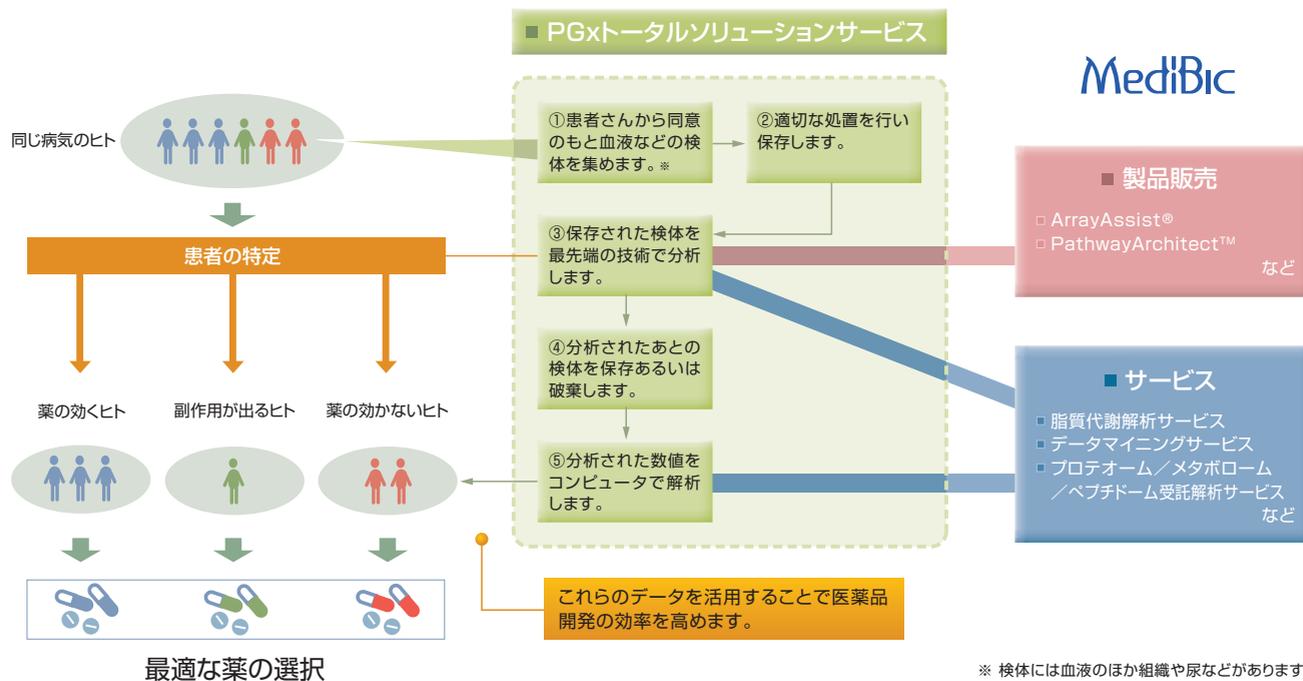
商品化へ

- 必要書類調査
- 他社事例調査
- 申請書類作成

解説 バイオマーカーを使った創薬支援とは

世界では、個別化医療と予防医療の実現に向けて、薬をより有効に、より安全に利用できる医療体制に変わりつつあります。そのために、遺伝子や生体反応を解析する最先端の技術から得られた情報（バイオマーカー）を利用して、個人の体質を理解しようとしています。「テーラーメイド（個別化）医療」とは、バイオマーカーにもとづいて、個人の体質や病状の違いに応じた最適な薬を投与するという考え方に立った医療です。

メディビックでは、バイオマーカーの探索やそれらの結果から、薬の反応性に影響を与える因子を見つけだすことで、新薬の研究開発を支援し、より安全で有効性の高い新薬を市場に提供する支援をしています。



メデイックファーマ、抗がん剤の臨床試験の準備を進める

さらに新薬候補化合物パイプラインの充実化へ

メデイックファーマでは、昨年から抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験の準備を進めています。現在、臨床第Ⅰ相試験準備の最終段階にあり、本年中の試験開始（投与の開始）を目指しています。本試験は主に固形がんの患者に対するグルフォスファミドの安全性評価を行うもので、終了まで約一年を予定しています。本試験終了後は、すい臓がんでの適応取得を目指して、臨床第Ⅱ相試験での有効性の評価に進む予定です。

すい臓がん※は、難治性がんの一つであり、現時点では有効な治療薬が少なく、新しい薬剤の登場が望まれています。グルフォスファミドは、その化学構造上の特徴により、選択的に腫瘍組織に取り込まれると考えられています。従って、従来と同種の薬剤に比べて、腫瘍細胞に対してより集中してダメージを与えることができ、副作用が少ないと考えられます。

グルフォスファミドは、提携先（米国・スレッシユールド社）により、海外で先行して開発されており、様々な臨床試験を通じて、がん細胞に対する有効性が示

唆されています。特にすい臓がんに対する効果が期待されており、米国では、2004年9月から転移性すい臓がんの患者を対象にした臨床第Ⅲ相試験が実施されています。

グルフォスファミドは、難治性すい臓がんの治療における米国食品医薬品局（FDA）のFast Track（優先審査）指定を受けており、すい臓がんの効能の早期取得が期待されています。この臨床第Ⅲ相試験は、2006年8月に患者登録を終了しており、2006年末までには、試験結果概略が発表される予定です。

メデイックファーマでは、テラーメイド創薬®の考え方に基いた事業を進めるために、グルフォスファミドに加えて、さらなるパイプラインの拡充を図っています。現在、コンサルタントを通じて有望な化合物を探し出すとともに、東亜ファーマテック社（韓国の大手製薬会社東亜製薬の子会社）などのパートナーとの提携を積極的に行い、新薬候補化合物を順次スクリーニングしています。

※すい臓がんについて

すい臓がんは、特徴的な症状がないことから早期発見が難しく、生物学的悪性度が高い（＝がんの早期の段階で、周辺の組織に広がりやすく、隣接する肝臓やリンパ節など他の臓器にも浸潤・転移しやすい）ことから、難治性がんの一つに挙げられています。

わが国では、肺がん、胃がん、肝臓がん、結腸がんに次ぐ5番目に死亡者の多いがんです。すい臓がんによる年間死亡者数は、2005年には22,918名（出所：厚生労働省大臣官房統計情報部 平成17年人口動態統計月報年計の概況）と年々増加する一方で、10年後には4万人を超えるとも予想されています。

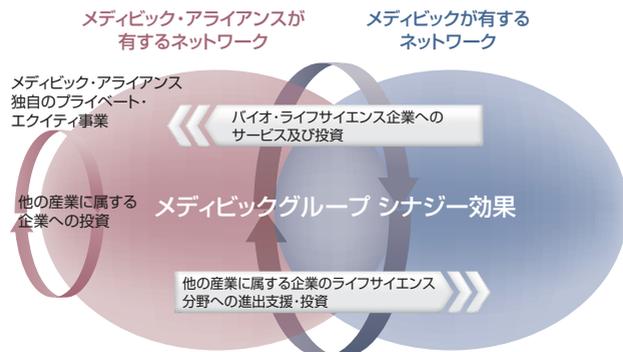
今のところ、わが国では、すい臓がんの有効な治療薬は少ないのが現状です。

メディビックグループのユニークなプライベート・エクイティ事業

3期目を迎え、国内外のIPO実績も3社に

メディビックグループは創立以来、国内外の製薬企業及びバイオベンチャー企業とのリレーション、世界中のネットワークを活用した情報収集能力、技術評価能力を培ってまいりました。メディビック・アライアンスは、その強みを生かして、ライフサイエンス業界を中心としたベンチャー企業に対して、資金面・経営面・事業面における複合的支援サービスを提供しています。

3期目を迎えたメディビックグループのプライベート・エクイティ事業は、その実績を背景に、独自の地位を確立しつつあります。



<主な事業内容>

■ 投資業務

高い技術評価眼とともに、Management/経営者の価値を見極めることに重点を置き、現在約20社に投資をしております。

■ ファンド業務

第一製薬株式会社と立ち上げた「テクノロジー・ファンド」、韓国市場の特性に機動的に対応することで高い投資リターンを目指す「韓国Pre-IPOファンド」など、様々な金融ニーズの進化に応え、多彩な投資ファンドを組成しています。投資実績を踏まえ、今後は目利きとしての投資顧問事業も強化します。

■ M&Aアドバイザリー業務

独自のネットワークを生かし、M&Aに関わるあらゆるプロセスにおいて、総合的なアドバイスを行っています。

■ 投資育成業務

事業育成・支援、上場支援等、成長ステージに合わせたサポートを、マネジメント・チームと一体で行います。

■ 投資事業での実績

2004年に投資を行ったベンチャー企業のうち既に2社が上場し、2005年に投資した企業も1社上場しました。(2006年9月14日現在)

- コスモ・バイオ株式会社 (JASDAQ)
- Crystal Genomics, Inc. (韓国KOSDAQ)
- Bioheart Korea, Inc. (韓国証券取引所)

■ 韓国・中国における事業展開

当中間期より、特に成長著しい韓国・中国におけるプライベート・エクイティ事業を積極的に展開しております。

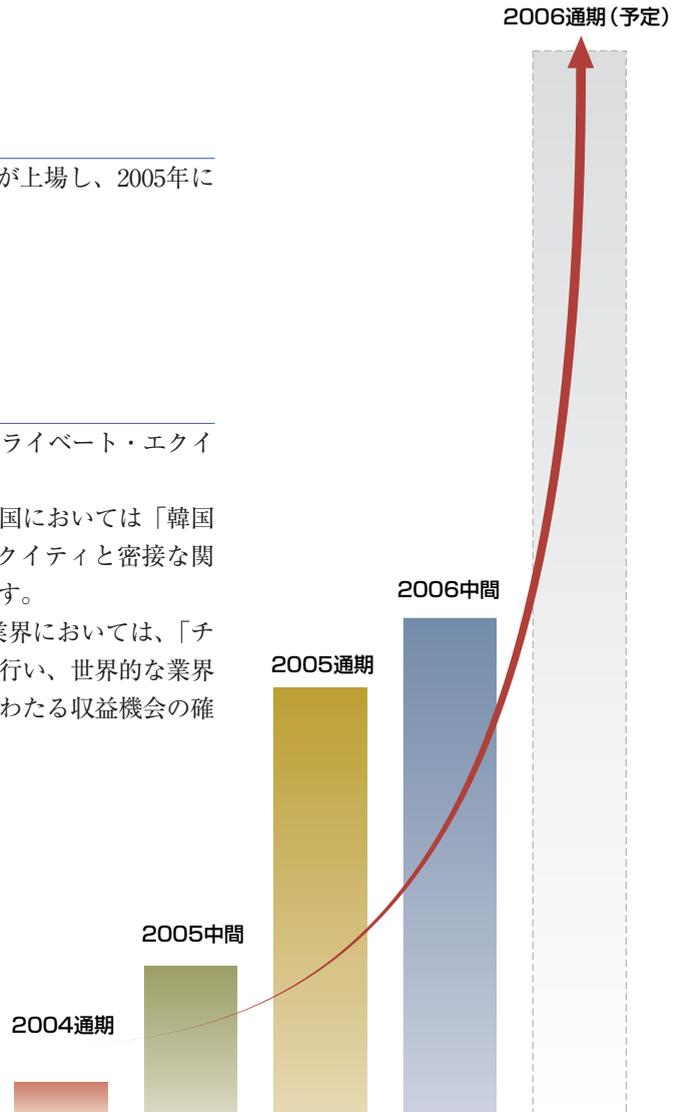
政府等による、先端技術産業への支援政策が盛んな韓国においては「韓国Pre-IPOファンド」を組成し、現地のプライベート・エクイティと密接な関係を構築することにより、貴重な投資機会を捉えています。

驚異的な成長を見せる中国のライフサイエンス・IT業界においては、「チャイナ・ファンド」を通じて比較的規模の大きい投資も行い、世界的な業界の活性化を目指し、メディビックグループの中・長期にわたる収益機会の確保を狙います。

■ 2006年度の事業展開 ■

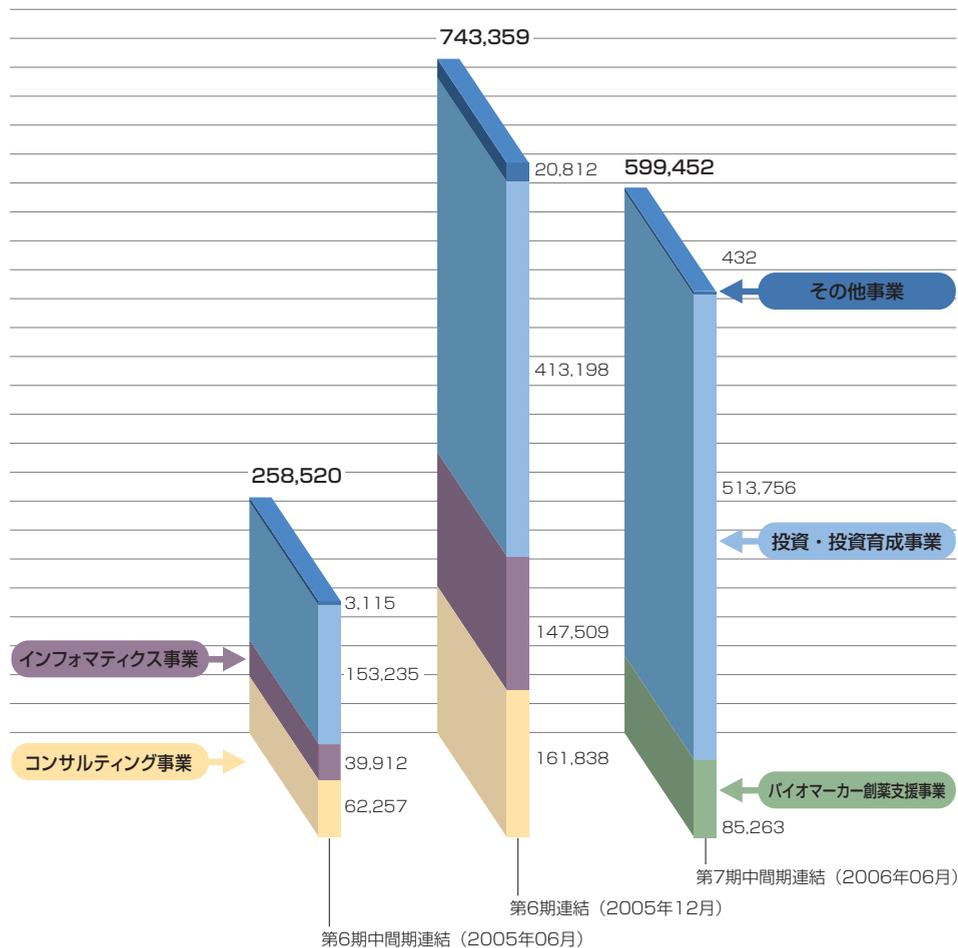
メディビック・アライアンスのプライベート・エクイティ事業は、注目されるバイオ・ライフサイエンス業界において独自の地位を確立しつつあります。

金融業界におけるファンド等へのアドバイザー業務、ベンチャー企業に対する経営・IPO支援及びM&Aアレンジ等、増加する顧客のニーズに対応し、着実に成長を続けてまいります。



第7期中間期営業活動のご報告

■ 事業別売上高の推移（単位：千円）



■ 主要経営指標の推移

		第6期中間期連結 '05/06	第6期連結 '05/12	第7期中間期連結 '06/06
売上高	(千円)	258,520	743,359	599,452
経常損失	(千円)	257,173	411,537	118,083
中間（当期）純損失	(千円)	257,147	425,452	242,994
株主資本	(千円)	2,350,585	2,280,194	1,974,355
総資産	(千円)	3,231,236	3,273,769	2,892,049
株主資本比率	(%)	72.8	69.7	68.7

● 当中間期の概況

当中間期（2006年1月～6月期）では、1月にグループの中期経営計画が発表され、持株会社制の導入と、2008年12月期の売上高28億円、経常利益5億円の目標が掲げられました。持株会社制導入に伴い、子会社も再編され、3月に創業事業を担う子会社として株式会社メディックファーマが新設されました。（7月には純粋持株会社として株式会社メディックが株式会社メディックグループに商号変更し、引き続き上場企業となるとともに、バイオマーカー創業支援事業を担う子会社として株式会社メディックが会社分割により新設されました。）

当中間期から、これまでのコンサルティング事業とインフォマティクス事業を統合して新設されたバイオマーカー創業支援事業では、遺伝子発現解析ソフ

トの国内独占販売権の獲得や、PGxトータルソリューション、脂質代謝解析などのサービスを開始するなど技術とサービスの強化を進めています。創業事業においては、抗がん剤グルボキサマドの国内臨床試験の準備が進められています。また、投資・投資育成事業では、3期目を迎え前年同期比で3倍以上の売上を上げる一方で、国内外のIPO実績も3社になり、成長著しい中国・韓国への展開も始めるなど、確実に成長しつつあります。

この結果、当中間期の連結売上高は599百万円、前年同期比で131.9%の増加となりました。また、経常損失118百万円（前年同期比54.1%改善）、中間純損失242百万円（前年同期比5.5%改善）となりました。

● 部門別の状況



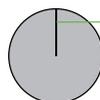
バイオマーカー創業支援事業

売上高比率 14.2%

バイオマーカー創業支援事業の中間連結売上高は、85百万円、前年同期比16.5%の減少となりました。

当中間期では、バイオマーカー創業の過程で実施される臨床試験の円滑な運営を支援するPGxトータルソリューションサービスや、脂質に関連するバイオマーカー探索から疾患進行予測・新薬開発まで幅広く応用できる脂質代謝解析サービスを始めました。

また、遺伝子発現解析ソフト ArrayAssist®の国内独占販売権を獲得しました。当社がインドのストランド・ライフ・サイエンス社と共同で開発を進めてきた基盤技術が取り込まれたもので、DNAチップ世界最大手のアフィメトリクス社製のDNAチップを分析するソフトとして認定されています。当社では、同ソフトの販売やその最新技術を反映したデータ分析サービスを始め、新規受注の獲得もしています。



その他事業／創業事業

売上高比率 0.1%

その他事業の中間連結売上高は、432千円、前年同期比86.1%の減少となり



投資・投資育成事業

売上高比率 85.7%

投資・投資育成事業の中間連結売上高は、513百万円、前年同期比235.3%の増加となりました。

当社グループは、前中間連結会計期間より同事業を本格化しており、現在の投資先は約20社となっています。

当中間期では、今年1月にKOSDAQ上場した韓国のCrystalGenomics社や、前年度に上場したコスモ・バイオ株式会社の株式の一部を売却しています。また、投資先である株式会社リンフォテックの株式の一部を、同社の提携先である韓国のInnocell社（韓国）に売却しました。さらにファンド組成では、「メディック Pre-IPO・コリア・ファンド」や中国のライフサイエンス関連ベンチャー企業中心に投資を行うファンドなど、韓国・中国への未公開株・企業育成ファンドを新たに組成しています。

ました。創業事業では、当中間期では米企業と共同開発を行っている抗がん剤グルボキサマドの国内臨床試験の準備が進められました。

3月には創業事業を担う子会社として株式会社メディックファーマを新設しました。（※創業事業は、現在研究開発段階にあるため、当中間期における売上高の計上はありません。）

● 通期の見通し

通期の業績見通しは、売上高1.395百万円、経常損失102百万円、当期純損失192百万円を見込んでいます。

バイオマーカー創業支援事業

開発戦略立案のコンサルティングからデータ解析、新薬承認申請の補助業務までPGx試験を戦略的にサポートするトータルソリューションの提供を中心に事業を展開してまいります。

創業事業

抗がん剤グルボキサマドの国内臨床試験準備を中心に進めてまいります。

投資・投資育成事業

ライフサイエンス分野を中心に有望なベンチャー企業を対象として、収益機会の拡大、投資パフォーマンスの向上に努めます。特に韓国・中国での投資においては、引き続きプライベート・エクイティ事業を強化し、公開が近いと思われる未公開企業への投資を行います。また、徐々に投資実績が上ってきたことから、機関投資家や証券会社が販売する未公開企業投資ファンドへの助言活動の拡大に注力していきます。

※業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。様々な要因の変化により、実際の業績は本業績と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

財務諸表

中間連結貸借対照表

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当中間期末 (第7期中間期)	前期末 (第6期)
資産の部		
流動資産	1,343,984	2,112,037
現金及び預金	484,479	726,073
受取手形及び売掛金	152,880	430,786
たな卸資産	12,945	4,853
営業投資有価証券	654,653	945,305
投資損失引当金	△4,800	△24,800
前払費用	5,526	3,227
未収消費税等	6,669	6,385
その他	31,629	20,204
固定資産	1,548,064	1,161,732
有形固定資産	136,068	47,857
建 物	8,178	7,908
工具器具及び備品	127,890	39,949
無形固定資産	398,518	525,657
電話加入権	144	144
ソフトウェア	3,417	4,983
販売権	—	76,190
化合物利用権	394,896	444,258
その他	61	81
投資その他の資産	1,013,477	588,216
投資有価証券	902,164	475,421
関係会社株式	56,237	56,237
長期貸付金	13,317	15,327
差入敷金・保証金	40,793	41,071
その他	4,500	158
貸倒引当金	△3,535	—
資産合計	2,892,049	3,273,769

科 目	当中間期末 (第7期中間期)	前期末 (第6期)
負債の部		
流動負債	97,011	182,205
買掛金	603	16,489
未払費用	41,185	55,824
未払法人税等	29,770	25,021
未払消費税等	—	4,229
前受金	16,907	3,703
預り金	3,134	3,231
繰延税金負債	5,409	36,662
その他	—	37,044
固定負債	805,525	807,531
社債	800,000	800,000
繰延税金負債	5,525	7,531
負債合計	902,536	989,736
少数株主持分		
少数株主持分	—	3,838
資本の部		
資本金	—	1,438,781
資本剰余金	—	1,972,045
利益剰余金	—	△1,194,671
その他有価証券評価差額金	—	64,094
自己株式	—	△55
資本合計	—	2,280,194
負債、少数株主持分及び資本合計	—	3,273,769
純資産の部		
株主資本	1,974,355	—
資本金	1,439,406	—
資本剰余金	1,972,670	—
利益剰余金	△1,437,666	—
自己株式	△55	—
評価・換算差額等	12,052	—
その他有価証券評価差額金	12,052	—
少数株主持分	3,104	—
純資産合計	1,989,512	—
負債純資産合計	2,892,049	—

中間連結損益計算書

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当中間期 (第7期中間期)	前中間期 (第6期中間期)
売上高	599,452	258,520
売上原価	304,331	193,421
売上総利益	295,120	65,098
販売費及び一般管理費	438,689	293,785
営業損失	143,569	228,687
営業外収益	38,130	1,327
受取利息	2,754	205
受取助成金等	—	833
投資事業組合等収益	26,155	—
ファンド管理手数料	8,577	—
雑収入	642	288
営業外費用	12,644	29,813
支払利息	—	34
新株発行費	—	2,617
為替差損	5,945	522
投資事業組合等損失	—	5,103
持分法による投資損失	—	20,625
貸倒引当金繰入	3,535	—
固定資産除却損	2,295	—
雑損失	868	910
経常損失	118,083	257,173
特別利益	—	855
関係会社株式売却益	—	855
特別損失	100,898	—
減損損失	66,666	—
投資有価証券評価損	34,232	—
税金等調整前中間純損失	218,982	256,318
法人税、住民税及び事業税	24,746	1,518
少数株主損失	733	689
中間純損失	242,994	257,147

中間連結キャッシュ・フロー計算書

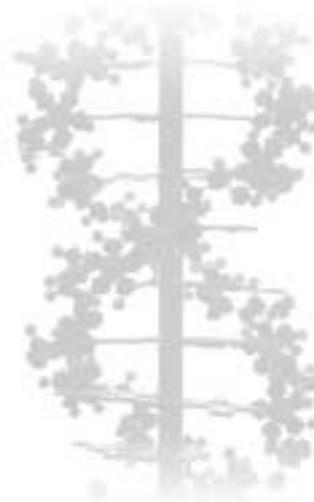
単位：千円、単位未満切捨

科 目	当中間期 (第7期中間期)	前中間期 (第6期中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	352,498	△ 223,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 595,526	△ 318,779
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,250	36,215
現金及び現金同等物に係る換算差額	184	518
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 241,593	△ 505,716
現金及び現金同等物の期首残高	716,073	1,754,610
現金及び現金同等物の中間期末残高	474,479	1,248,893

当中間期 2006年1月1日～2006年 6月30日

前中間期 2005年1月1日～2005年 6月30日

前 期 2005年1月1日～2005年12月31日



会社の概況 (2006年6月30日現在)

設立 : 2000年2月17日
資本金 : 14億3,940万円
所在地 : 〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル8F
TEL : 03-5510-2407

事業所 : 上海事務所
社員数(連結) : 42名(常勤役員を含む)
主要取引銀行 : 株式会社三井住友銀行 日比谷支店
株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋駅前支店
株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋支店

グループ会社 : (株)メディビック(2006年7月3日新設)
(株)メディビックファーマ
(株)メディビック・アライアンス
アネクス・ファーマシューティカルズ・インク

取締役

代表取締役社長	橋本康弘
専務取締役	小林光
取締役	川井隆史

監査役

常勤監査役	木下郁大
監査役	臼井和郎
監査役	富岡和治

執行役員

執行役員	喜多見浩次
執行役員	野津克忠
執行役員	中江裕樹



<http://www.medibic.com/>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。

詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。

ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。

●会社説明会ストリーミング

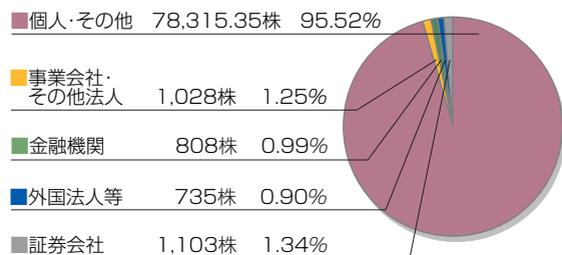
当社HP上にて、会社説明会の様子を動画配信でお伝えしています。経営陣の肉声による詳細な戦略解説や質疑応答を通して、よりわかりやすい形で当社をご理解いただけます。

株式の状況 (2006年6月30日現在)

株式状況

発行可能株式総数	154,944株
発行済株式の総数	81,989.35株
株主数	10,140名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
橋本 康弘	20,177	24.61
大阪証券金融株式会社(業務口)	711	0.87
青柳 満喜	451	0.55
マネックス証券株式会社	436	0.53
長谷川 忠正	339	0.41
小林 光	322	0.39
清水 祐孝	292	0.36
大前 トモ子	290	0.35
藤井 衛	287	0.35
波多野 美代子	259	0.32

新株予約権付社債の状況

銘柄	発行年月	発行総額	累計行使額	行使率	転換価額
2007年満期円建株式会社メディビック 転換社債型新株予約権付社債	平成16年10月	14億円	6億円	42.86%	91,000円

※転換価額については、修正及び調整により変更する場合があります。

株主メモ

- 決算期 12月31日
- 定時株主総会 3月中
- 株主確定基準日 12月31日
- 株式の売買単位 1株
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先) 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
- お知らせ 住所変更、配当金振込指定・変更に必要な
各用紙、及び株式の相続手続依頼書
のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル
0120-864-490及びホームページ
(http://www.tr.mufg.jp/daikou/tetsuzuki_01.html)
にて24時間承っておりますので、ご利用下さい。
(証券保管振替制度をご利用の株主様は、
お取引の証券会社にお申し出下さい。)
- 公告の方法 電子公告(当社ホームページ <http://www.medibic.com>)。但し、やむを得
ない事由により、電子公告によること
ができない場合は、日本経済新聞に掲
載いたします。
- 証券コード 2369

MediBic

■ 当冊子についてのお問合せ先 ■

株式会社メディックグループ[®] 管理本部

本社 / 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2大同生命霞が関ビル8F TEL. 03-5510-2407

